



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2022年
12月

- 12月のDIは、全9指標のうち6指標が低下、主要3指標は、売上高4ポイント低下、収益状況12ポイント低下、業界の景況は8ポイント低下している。
- 12月末時点では、製造業では7指標のDIが上昇、また非製造業では8指標のDIが低下している。

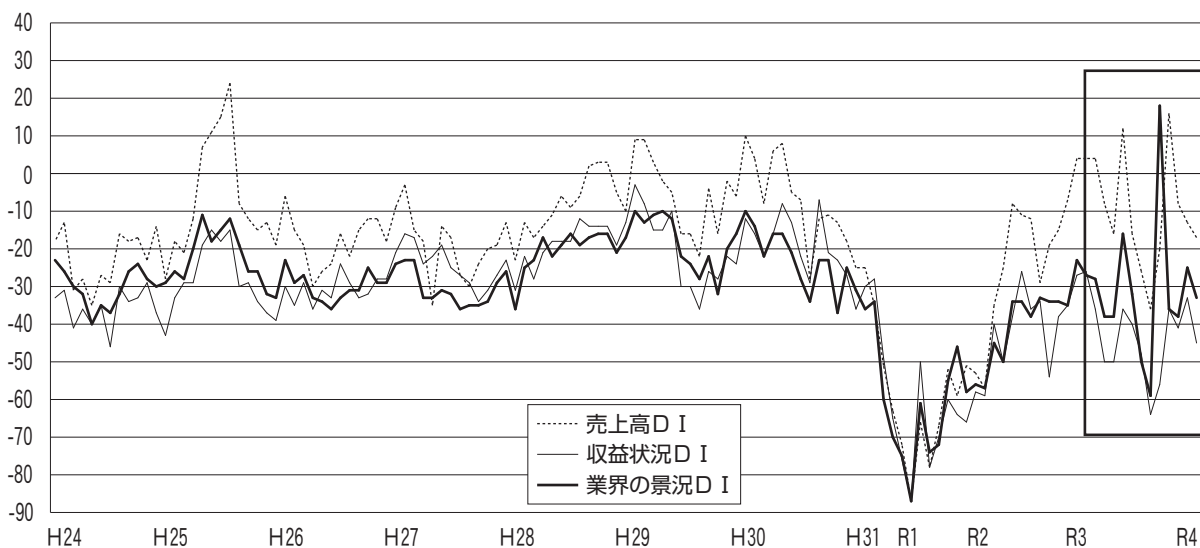
景況天気図

令和4年 12月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比	10月	12月	前月比	
売上高	△13 	△17 	↓ -4	△6 	0 	↑ 6	△22 	△60 	↓ -38	10~29 晴れ
在庫数量	11 	△6 	↑ -17	7 	△15 	↑ -22	33 	50 	↓ 17	9~△9 うす曇り
販売価格	29 	28 	↓ -1	27 	31 	↑ 4	33 	20 	↓ -13	△10~△29 くもり
取引条件	△13 	△17 	↓ -4	△13 	△15 	↓ -2	△11 	△20 	↓ -9	△30~△49 雨
収益状況	△33 	△45 	↓ -12	△34 	△38 	↓ -4	△34 	△60 	↓ -26	△50以上 大雨
資金繰り	△13 	△22 	↓ -9	△20 	△15 	↑ 5	0 	△40 	↓ -40	
設備操業度	△20 	△15 	↑ 5	△20 	△15 	↑ 5				
雇用人員	△13 	△11 	↑ 2	△13 	△7 	↑ 6	△11 	△20 	↓ -9	
業界の景況	△25 	△33 	↓ -8	△26 	△23 	↑ 3	△22 	△60 	↓ -38	

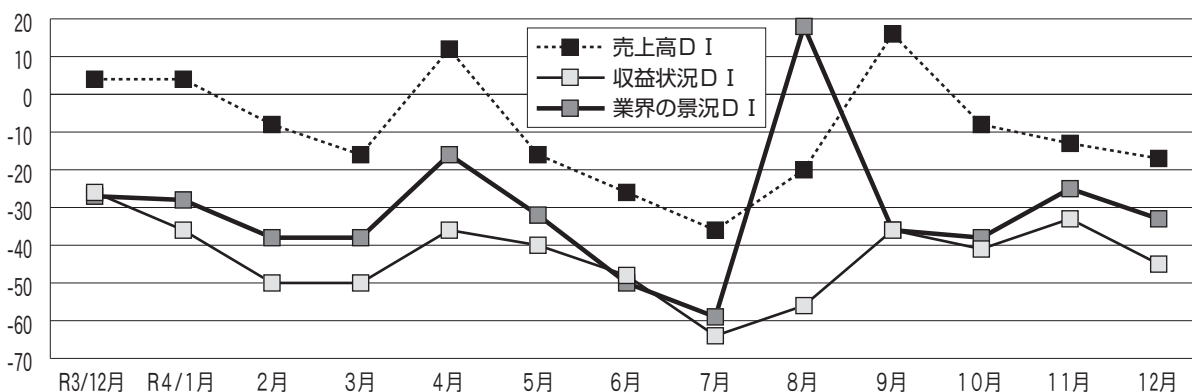
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H24年12月～R4年12月のDIの推移



全産業 R3年12月～R4年12月のDIの推移



業種別概況 (12月分)

【製造業】



水産食料品製造業

忘年会の予約増加により、年末に近づくにつれ鍋商材の注文が殺到し、業界の景況は好転した。



木材加工業

前年同月と比べてほぼ横ばいであるが、今後のコロナ情勢、中国経済等で予断を許さない状況である。



綿・スフ織物製造業

業界の景況としては安定しているが、綿糸のさらなる高騰及び電気料金の再値上げも予想されるため、楽観できない状況である。



古紙収集加工業

古紙、雑誌古紙は発行部数の減により大幅に減少、また、印刷用紙の必要な不振により家族向け産業古紙の発生も極端に減少し、業界全体としての景況は悪化している。

**製本業**

前年同月と比べ横ばい状況であるが、組合員企業は原油価格の高騰に伴う運送費などを製品単価に転嫁できず、また、機材関連業者からは値上げを要望され苦慮している。

**シール印刷業**

前月同様コロナウイルス感染対策の規制解除による社会経済活動の回復を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し、業界の景況は好転した。

**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比15%減、前年比20%減で業界の景況は極めて悪化している。コロナ禍によるイベント減少、ネット利用増加に伴う広告媒体の変化によるプラスチック加工品の需要減少によるものと思われる。

**石鹼洗剤製造業**

コロナ需要の反動減で大きく動いた2021年度に比べ、2022年度は平年並みに戻りつつあり、景況としては安定している。

**鍛造業**

生産量において主要の産業機械・土木建設機械用と自動車用が1%程度の前年割れであったが、その他は約15%の増加となり、全体として生産量は約2%増となった業界の景況としては安定しているが、先行き依然として不透明な状況である。

**建築金物製造業**

前年同月比で大きな変動はないが、燃料価格、原材料費の高騰や物流コストの上昇などにより、業界各社の経営環境は依然として厳しい状況にある。

**印刷製本機械製造業**

この数か月、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著である。また、入手可能な部品は品切れを懸念し大量発注するため、通常の5倍近い在庫が発生している。

業界の景況は横ばい状態である。

【非製造業】**衣服・身の回品卸売業**

円安、仕入れ価格や光熱費の高騰により原価率の悪化基調が続き、業界全体の景況も悪化している。

**二輪自動車小売業**

月を追うごとに来店客数や需要が減少し、商品在庫も人気商品以外は増加しており、取引条件、収益状況ともに悪化している。

**警備業**

コロナ禍の影響は続いているが、社会経済活動が回復してきたことで、警備業務の受注も徐々に増え、売上げは昨年同月より増加した。依然、慢性的な警備員不足が問題である。

**建設業**

建築資材等の高騰に伴い、取引条件、収益状況共に悪化、業界の景況も悪化している。

**タイル工事業**

諸物価の高騰に伴う材料メーカーの値上げが11月、12月の工事に影響を与えているより、業界の景況は悪化している。